

JIS

ソフトウェア測定－機能規模測定－ 第6部：JIS X 0135 規格類及び関連規格の 利用指針

JIS X 0135-6 : 2008
(ISO/IEC 14143-6 : 2006)

平成 20 年 3 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 情報技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	石 崎 俊	慶應義塾大学
(委員)	浅 野 正一郎	国立情報学研究所
	大 石 奈津子	財団法人日本消費者協会
	大久保 彰 徳	社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
	笥 捷 彦	早稲田大学
	加 藤 泰 久	日本電信電話株式会社
	岸 淳 一	日本銀行金融研究所
	木 戸 彰 夫	日本アイ・ビー・エム株式会社
	後 藤 志津雄	株式会社日立製作所
	塩 沢 文 朗	財団法人日本規格協会
	設 楽 哲	社団法人電子情報技術産業協会
	関 根 千 佳	株式会社ユーディット
	高 橋 真理子	財団法人日本情報処理開発協会
	田 中 宏	総務省
	中井川 禎 彦	総務省
	中 山 康 子	株式会社東芝
	平 野 芳 行	日本電気株式会社
	伏 見 論	社団法人情報サービス産業協会
	藤 村 是 明	独立行政法人産業技術総合研究所
	宮 澤 彰	国立情報学研究所
	山 本 喜 一	慶應義塾大学
	渡 辺 裕	早稲田大学
(専門委員)	安 藤 栄 倫	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 20.3.20

官 報 公 示：平成 20.3.21

原案作成協力者：財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：情報技術専門委員会 (委員長 石崎 俊)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成協力者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット情報電子標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 E-mail: qqgcbd@meti.go.jp 又は FAX 03-3580-8625) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	2
2 略語	2
3 FSM 関連規格 (JIS X 0135 規格類), FSMM 規格及びそれらの関係	2
3.1 FSM 関連規格のあらまし	2
3.2 規格化された FSMM のあらまし	4
3.3 FSM 関連規格間の関係	5
3.4 FSM 関連規格の利用指針	8
4 FSM 及び FS の用途	8
4.1 概略	8
4.2 プロジェクト管理	8
4.3 遂行管理 (Performance management)	10
5 FSMM の選択及び開発プロセス	11
5.1 概略	11
5.2 利用目的に適した FSMM の選択	11
5.3 FSMM の開発プロセス	14
附属書 A (参考) FSM 関連規格の適用範囲	16
参考文献	21
解 説	22

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づき、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に係る確認について、責任はもたない。

JIS X 0135 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS X 0135-1 第1部：概念の定義

JIS X 0135-2 第2部：ソフトウェア規模測定手法の JIS X 0135-1:1999 への適合性評価

JIS X 0135-6 第6部：JIS X 0135 規格類及び関連規格の利用指針

ソフトウェア測定－機能規模測定－

第 6 部 : JIS X 0135 規格類及び関連規格の利用指針

Information technology – Software measurement – Functional size measurement – Part 6: Guide for use of ISO/IEC 14143 series and related International Standards

序文

この規格は、2006 年に第 1 版として発行された ISO/IEC 14143-6 を基に、技術的内容及び対応国際規格の構成を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある“注記”は、対応国際規格にはない事項である。

機能規模測定は、ソフトウェアの利用者機能要件を数値化することによってソフトウェアの規模を測定する技法である。この概念を取り込んで出版された最初の手法は、Allan J. Albrecht が 1970 年代末に開発した“ファンクションポイント法 (Function Point Analysis)”である。それ以来、最初の手法の拡張版及び変形版が数多く開発されてきた。機能規模測定に関して次に示す JIS、国際規格、標準報告書などが発行されている。

- － JIS X 0135 規格類 (JIS X 0135-1:1999, JIS X 0135-2:2004, ISO/IEC TR 14143-3:2003, ISO/IEC TR 14143-4:2002 及び ISO/IEC TR 14143-5:2004)

注記 日本工業規格では、部で構成する規格がある場合、この部編成の規格全体を総称して、“規格群”と呼ぶ。この規格では、日本工業規格になっていない標準報告書を含めて、規格全体を総称する場合は、“規格類”と呼ぶ。また、この規格類の中では、日本工業規格になっていない標準報告書を、便宜上、第 3 部、第 4 部、第 5 部と呼ぶ。

- － JIS X 0143:2006
- － ISO/IEC 20926:2003
- － ISO/IEC 20968:2002
- － ISO/IEC 24570:2005

この規格は、機能規模測定手法の利用者及び開発者に対して、上記の規格が互いにどのように関連し、どのように使用すればよいかの指針を提供するために制定された。

ソフトウェアを測定することによって得られる機能規模は、ソフトウェア並びにその開発、保守及び支援活動の特性をより深く理解する助けとなる。機能規模及び／又は機能規模測定の定義・利用に関連する規格は、次の三つの型に分類できる。

- a) 概念標準：概念を記述し、定義を提供する。
- b) 支援標準：機能規模測定手法の評価を支援し、機能規模測定手法が測定するソフトウェアの機能領域の例に関する情報を提供する。